

2014年8月期 第1四半期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2014年8月期第1四半期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第1四半期決算概要	P3	～	P16
II. 2014年8月期 通期業績予想	P17	～	P18
III. ご参考資料	P19	～	P23

【資料文中のグループ事業の表示について】

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

(2013年8月期以降)

国内ユニクロ事業：株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジーユー事業、J Brand事業が含まれています。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

【連結】2014年8月期 第1四半期実績

売上高：3,890億円（前年同期比 +22.3%）
営業利益：640億円（前年同期比 +13.1%）
経常利益：686億円（前年同期比 +14.9%）

	2013年8月期	2014年8月期	
	第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
売上高 (売上比)	3,181 100.0%	3,890 100.0%	+22.3%
売上総利益 (売上比)	1,616 50.8%	1,996 51.3%	+23.5% +0.5p
販管費 (売上比)	1,050 33.0%	1,355 34.8%	+29.1% +1.8p
営業利益 (売上比)	566 17.8%	640 16.5%	+13.1% ▲1.3p
経常利益 (売上比)	597 18.8%	686 17.7%	+14.9% ▲1.1p
純利益 (売上比)	384 12.1%	418 10.8%	+8.8% ▲1.3p

単位：億円

3

2014年8月期 第1四半期の連結業績ですが、
 売上高は3,890億円、前年同期比22.3%増、
 営業利益は640億円、同13.1%増、
 経常利益は686億円、同14.9%増、
 純利益は418億円、同8.8%増となりました。

売上高 3,890億円（前年同期比 +22.3%、709億円増収）

- ・ 海外ユニクロ事業 +495億円
- ・ グローバルブランド事業 +176億円
- ・ 国内ユニクロ事業 +37億円

売上高総利益率 51.3%（前年同期比 +0.5p）

- ・ 国内ユニクロでの改善 +1.8p

売上高販管費比率 34.8%（前年同期比 +1.8p）

- ・ 国内ユニクロでの上昇

営業利益 640億円、前年同期比 13.1%増

経常利益 686億円、前年同期比 14.9%増

- ・ 為替差益48億円

純利益 418億円、前年同期比 8.8%増

まず売上高ですが、3,890億円と前年同期比22.3%増、709億円の増収となりました。その内訳ですが、海外ユニクロ事業が495億円の増収、グローバルブランド事業が176億円の増収、国内ユニクロ事業が37億円の増収となっております。

売上高総利益率は51.3%と、前年同期比0.5ポイント改善いたしました。改善の要因としては、国内ユニクロ事業の粗利益率が同1.8ポイント改善したためです。

売上高販管費比率は34.8%と、前年同期比1.8ポイント上昇いたしました。これは、主に国内ユニクロの販管費比率の上昇による影響です。

これらの結果、営業利益は640億円、前年同期比13.1%増の増益となりました。

経常利益につきましては686億円と、同14.9%増となっております。11月末の為替レートが1ドル約102円と8月末の1ドル約98円に比べ若干の円安となったことにより、為替差益48億円が計上され、営業外収支は前年同期比14億円改善しております。

純利益は418億円と、前年同期比8.8%増となりました。

【セグメント別】第1四半期実績

単位：億円

		2013年8月期	2014年8月期	
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
国内ユニクロ事業	売上高	2,047	2,084	+1.8%
	営業利益 (売上比)	399 19.5%	424 20.4%	+6.2% +0.9p
海外ユニクロ事業	売上高	645	1,140	+76.8%
	営業利益 (売上比)	84 13.0%	165 14.5%	+97.0% +1.5p
グローバルブランド事業	売上高	483	659	+36.5%
	営業利益 (売上比)	62 13.0%	68 10.4%	+9.2% ▲2.6p

注：連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。
売上高には内部取引は含まれておりません。

セグメント別の業績は、こちらのスライドの通りです。

国内ユニクロ事業の売上高は2,084億円、営業利益は424億円、
海外ユニクロ事業の売上高は1,140億円、営業利益は165億円、
グローバルブランド事業の売上高は659億円、営業利益は68億円と、
いずれのセグメントでも増収増益を達成いたしました。

1Q (9~11月) 増収増益

単位：億円

	2013年8月期 実績	2014年8月期 実績		2014年8月期 予想	
	第1四半期	第1四半期	前年同期比	通期	前年同期比
売上高 (売上比)	2,047 100.0%	2,084 100.0%	+1.8%	7,200 100.0%	+5.4% +0.0p
売上総利益 (売上比)	976 47.7%	1,032 49.5%	+5.8% +1.8p	3,500 48.6%	+10.1% +2.1p
販管費 (売上比)	576 28.1%	607 29.2%	+5.5% +1.1p	2,355 32.7%	+6.5% +0.3p
営業利益 (売上比)	399 19.5%	424 20.4%	+6.2% +0.9p	1,145 15.9%	+18.2% +1.7p

注：売上高には内部取引は含まれておりません。

6

ここからは、各事業についてご説明いたします。

まず国内ユニクロ事業の売上高予想についてお詫び、訂正させていただきます。10月に発表いたしました通期の売上高予想7,280億円には、海外ユニクロ事業との内部取引の一部、約80億円を含んでおりました。セグメントの売上高には従来から内部取引は含まれておりませんでしたので、内部取引を除いたベース、7,200億円が本来正しい業績予想となりますので訂正いたします。

さて、第1四半期の国内ユニクロ事業の実績ですが、売上高は内部取引を除いたベースで2,084億円と、前年同期比1.8%の増収、営業利益は424億円と、同6.2%の増益となりました。

売上高は、期初予想に比べて約90億円下回っております。一方で、営業利益は期初予想に比べて約10億円上回っております。

詳細につきましては、次のスライドでご説明させていただきます。

1Q (9~11月) 売上高 2,084億円 (前年同期比+1.8%)

売上高は1.8%増収

- ・既存店売上高は前年比▲0.3% (客数▲0.8%、客単価+0.5%)
- ・11月末の直営店舗数は837店舗、前年同期末比+5店舗
- ・スクラップ&ビルドによる店舗の大型化

販売動向

- ・9月はカシミア、シルクなどの秋物商品の立ち上がり好調。10月は気温が高かったことや台風の影響により苦戦。11月は気温の低下にともない、ヒートテック、ウルトラライトダウン、フリースなどの冬物コア商品の販売が好調
- ・客単価アップは、一品単価の高い商品の販売好調、ヒートテックの買上げ点数増による

直営既存店 前年比	2014年8月期				
	9月	10月	11月	1Q累計	12月
売上高	+4.4%	▲13.8%	+7.7%	▲0.3%	+1.1%
客数	+8.1%	▲14.1%	+5.7%	▲0.8%	▲1.0%
客単価	▲3.4%	+0.4%	+1.9%	+0.5%	+2.1%

7

まず売上高の状況についてご説明いたします。

売上高は前年同期比1.8%の増収でした。

既存店売上高は同0.3%の減収となったものの、11月末の直営店舗数が837店舗と前年同期末比5店舗増えたこと、スクラップ&ビルドによる店舗の大型化により増収となりました。

既存店売上高0.3%減の内訳は、客数が0.8%の減少、客単価が0.5%の増加です。

9月はカシミア、シルクなどの秋物商品の立ち上がりが好調だったため、増収となりましたが、10月は気温が高く推移したこと、季節外れの台風の影響などにより客数が大幅に減少したことで、減収となりました。

11月は、中旬以降の気温の低下にともない、ヒートテック、ウルトラライトダウン、フリースなどの冬物コア商品の販売が好調で増収に転じております。

客単価は、ウルトラライトダウン、カシミアなど、一品単価の高い商品の販売が好調で上昇したこと、およびヒートテックの買上げ点数が増えたことにより、プラス0.5%となりました。

12月の既存店売上高は、すでにお知らせしている通り1.1%増と、増収を維持しております。

1Q
(9~11月) **売上高総利益率 49.5%** (前年同期比 +1.8p)

従来ベースの売上高総利益率は、
+0.6ポイント改善、ほぼ計画通りの水準

前年に比べて改善した理由:

- ・値引き販売や、値引き商品の品番数をコントロール
- ・売価変更を抑制

次に、国内ユニクロ事業の売上高総利益率ですが、
49.5%と前年同期比で1.8ポイント改善いたしました。

なお、内部取引による影響を除いた、従来ベースでの
粗利益率は前年同期比0.6ポイント改善いたしました。
これはほぼ計画通りの水準となっております。

前年同期に比べて、粗利益率が改善した理由は、
値引き販売や、値引き商品の品番数をコントロールしたこと、
売価変更を抑制したことによります。

1Q (9~11月) 売上高販管費比率 29.2% (前年同期比 +1.1p)

対売上高比率は1.1ポイント上昇も 計画比で約40億円下回る

・ 人件費比率	前年同期比	+ 0.6 ポイント
・ 広告宣伝費比率	同	▲ 0.1ポイント
・ 賃借料率	同	+ 0.3 ポイント
・ 減価償却費	同	+ 0.1 ポイント
・ その他経費比率	同	+ 0.2ポイント

9

売上高販管費比率は29.2%と、前年同期比1.1ポイント上昇いたしました。ただし、売上高が計画を下振れたことにより、人件費、賃借料も計画に対して下振れたことや、広告宣伝費の期ズレ等があったため、金額ベースでは計画比で、約40億円下回っております。

対売上高比率で経費比率が1.1ポイント上昇した内訳としては、人件費比率で0.6ポイント、賃借料率で0.3ポイント、その他経費比率で0.2ポイントとなります。

人件費比率の上昇は、パート・アルバイトなどの店舗人件費を増やしたことによる影響です。

賃借料率の上昇は、ショッピングモールや都心部の店舗の売上高構成比が高まったことによります。

その他経費比率の上昇は、定番商品の在庫が増えたことによる物流費・倉庫費増などによるものです。

1Q
(9~11月) **計画を大幅に上回る増収増益**

- ・中華圏、韓国、米国、欧州が計画を上回る
- ・東南アジア事業も好調を維持、ほぼ計画どおり
- ・アジア、米国を中心に66店舗の純増、11月末:512店舗

単位: 億円

		2013年8月期	2014年8月期	
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
海外ユニクロ事業	売上高	645	1,140	+76.8%
	営業利益	84	165	+97.0%
	(売上比)	13.0%	14.5%	+1.5p

10

次に海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

売上高は1,140億円、前年同期比76.8%増、営業利益は165億円、同97.0%増と、計画を大幅に上回る増収増益を達成いたしました。

特に中華圏、韓国、米国、欧州の業績が好調で、計画を上回ることができております。東南アジア事業の業績も好調を維持しており、ほぼ計画通り推移いたしました。

この第1四半期では、アジア、米国を中心に、計画通り68店舗を出店、2店舗を閉店し、66店舗の純増となりました。海外ユニクロ事業全体での店舗数は11月末で512店舗に達しております。

各エリアの業績トレンド

- ・**中華圏：計画を上回る増収増益を達成**
 中国は順調な出店と既存店の増収により業績拡大
 台湾は大量出店が奏功し、売上、利益ともに高い伸び率
 1Qでは33店舗を出店(1店舗閉店)、11月末312店舗
 グローバル旗艦店「ユニクロ上海店」により知名度をさらに高める
- ・**韓国：計画を上回る増収増益を達成**
 冬物コア商品の販売が好調で、既存店は増収。11月末115店舗
- ・**東南アジア地区：計画通りの増収増益**
 1Qでは11店舗を出店、50店舗まで拡大
- ・**米国：計画を上回る増収増益を達成**
 ニューヨークの3店舗は2桁増収、秋にオープンした10店舗も順調
 CEOラリー・マイアーのもと、業績が軌道に乗る
- ・**欧州：計画を上回る増収増益**

11

次に、各エリアの業績トレンドですが、中国、香港、台湾といった中華圏では、第1四半期の業績は計画を上回り、大幅な増収増益となりました。中国では順調な出店と既存店の増収が業績拡大に寄与しております。台湾では大量出店が奏功し、売上、利益ともに高い伸び率となっております。

第1四半期では中華圏全体で33店舗を出店、1店舗を閉店し、11月末の店舗数は312店舗に達しております。また、2013年9月30日にオープンしたグローバル旗艦店「ユニクロ上海店」は成功をおさめ、中国市場においてユニクロの知名度をさらに高めることが出来ております。

韓国は計画を上回る大幅な増収増益となりました。フリース、ヒートテックなどの冬物コア商品の販売が好調で、既存店売上高は、2桁増収を達成した昨年をさらに上回って増収となっております。第1四半期では11店舗を出店、1店舗を閉店し、115店舗まで拡大しております。

シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシアといった東南アジア地区については、計画通り増収増益を達成いたしました。第1四半期では11店舗を出店し、11月末で50店舗まで拡大しております。

米国は、ニューヨークの3店舗が2桁増収と好調だったことに加え、この秋にショッピングモールにオープンした10店舗の売上也順調に推移し、計画を上回る増収増益を達成いたしました。米国は、CEOに就任したラリー・マイアーのもと、マーケティング、新規出店、マーチャンダイジングなどが改善し、業績は軌道に乗ってきております。

欧州事業も、計画を上回る増収増益となっております。第1四半期では、3店舗を出店し、11月末の店舗数は18店舗となっております。

上海にグローバル旗艦店をオープン



スライド12では、9月30日に上海にオープンしたグローバル旗艦店「ユニクロ上海店」をご紹介します。

こちらの店舗は総売場面積が約2,430坪で、うちユニクロが世界最大の約2,000坪となっております。このほか、グループブランドのジーユー、コントワー・デ・コトニエ、プリンセス タム・タム、PLST(プラステ)も出店しており、ジーユー、PLSTは初の海外出店となります。オープン初日には、約2,000名のお客様にお並びいただき、大盛況となりました。

グループ執行役員人事に関するお手元のリリースをご覧ください。すでにご報告している通り事業責任者として米国・欧州ユニクロやグループブランド事業において、多くの外国人経営者が活躍しておりますが、これに加えグローバル本部の機能を担う執行役員としても続々と経営人材が入社してきておりますので、過去半年の間に入社した4人をご紹介します。

このように世界中からの優秀な人材を得て、グローバルな経営体制が整ってきていることも、海外事業好調の一因だと考えています。

ほぼ計画通りの増収増益

- ・ジュー事業：計画通り、2桁の増収増益を達成
既存店売上高は増収、1Qでは39店舗を出店（3店舗閉店）11月末250店舗
9月にユニクロ上海店に初の海外店舗を出店
- ・セオリー事業：増収も、営業利益は計画を若干下回り、減益
- ・コントワー・デ・コトニエ事業：計画を若干上回り、増収増益
- ・プリンセス タム・タム事業：計画通り、前年並みの業績
- ・J Brand事業：計画通り、阪急うめだ本店に1号店をオープン

		2013年8月期		2014年8月期		単位： 億円
		第1四半期実績		第1四半期実績		
グローバルブランド事業	売上高	483		659		+36.5%
	営業利益	62		68		+9.2%
	(売上比)	13.0%		10.4%		▲2.6p

13

グローバルブランド事業の第1四半期の売上高は659億円、前年同期比36.5%増、営業利益は68億円、同9.2%増と、増収増益を達成いたしました。これは売上高、利益ともにほぼ計画通りの水準となっております。

ジュー事業については、計画通り2桁の増収増益を達成いたしました。既存店は増収が続いており、第1四半期では39店舗を出店、3店舗を閉店し、11月末の店舗数は250店舗まで拡大いたしました。なお、9月30日にユニクロ上海店に初の海外店舗を出店し、今後の海外進出への第一歩となりました。

セオリー事業については、増収を達成いたしましたが、粗利益率低下と人件費などの経費増により、営業利益は計画を若干下回り、減益となっております。

コントワー・デ・コトニエ事業は、期初予想を若干上回る増収増益を達成いたしました。プリンセス タム・タム事業は、ほぼ計画通り、前年並みの業績となっております。

J Brandはほぼ計画どおりの業績を達成いたしました。10月には阪急うめだ本店に直営店1号店を出店しております。

単位：億円

	2012年11月末	2013年8月末	2013年11月末	前年同期比
総資産	6,970	8,858	10,231	+3,261
流動資産	5,141	6,401	7,692	+2,550
固定資産	1,828	2,456	2,539	+710
負債	2,512	3,062	3,902	+1,389
純資産	4,458	5,795	6,329	+1,871

14

次に2013年11月末のバランスシートの説明をさせていただきます。

総資産は1兆231億円と、前年同期末比3,261億円増加いたしました。これは、流動資産が同2,550億円増加したこと、および固定資産が同710億円増加したためです。

これを受けて、純資産は同1,871億円増加いたしました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

流動資産の増加 +2,550億円(5,141億円⇒7,692億円)

・現金・預金及び有価証券の増加：+189億円(3,045億円⇒3,234億円)

・たな卸資産の増加：+720億円(1,114億円⇒1,834億円)

【国内ユニクロ事業】+208億円

店舗什器の高層化による店頭在庫増、通年で販売する定番商品の増加

【海外ユニクロ事業】+424億円増 11月末店舗数が前年同期末比で165店舗増加

【グローバルブランド事業】+69億円増

ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大による在庫増、J Brandを連結

・為替予約勘定：+1,298億円(資産77億円⇒1,376億円)

【国内ユニクロ事業】11月末レートが保有する為替予約の平均レートより円安
ヘッジ会計適用のため 損益への影響なし

固定資産の増加 +710億円(1,828億円⇒2,539億円)

・有形固定資産の増加：+224億円(778億円⇒1,002億円)

【海外ユニクロ】前年同期末比165店舗の増加【グローバルブランド】同84店舗の増加

・無形固定資産の増加：+408億円(375億円⇒783億円)

【グローバルブランド事業】J Brandを連結

15

まず、流動資産が2,550億円増加した要因をご説明いたします。

現金・預金及び有価証券の合計額は3,234億円と、前年同期末比で189億円増加いたしました。これは、海外ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュ・フローが増加したことによるものです。

たな卸資産は1,834億円と、前年同期末比720億円増加しております。

国内ユニクロ事業の11月末在庫は同208億円増加いたしました。これは店舗什器の高層化による店頭在庫の増加と、通年で販売する定番商品を増やしたことによります。

海外ユニクロ事業の在庫は、同424億円増加いたしました。これは、海外でも通年で販売する定番商品を増やしていること、11月末の店舗数が、上海グローバル旗艦店を含め前年同期末比165店舗増えたためです。

グローバルブランド事業の在庫は、同69億円増加しております。これは、ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大に伴って在庫が増加したこと、J Brandの在庫を連結したことによります。

為替予約勘定は、資産側で1,376億円と前年同期末比1,298億円増加いたしました。

国内ユニクロ事業などでは、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。11月末の為替レートが保有する為替予約の平均レートより円安になったことから、為替予約が大幅に増加いたしました。

なお、ヘッジ会計を適用していることから損益への影響はございません。

固定資産は、前年同期末比で710億円増加しております。これは、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業で店舗数がそれぞれ同165店舗、84店舗増加したことにより有形固定資産が同224億円増加したこと、J Brandを連結したことなどにより、無形固定資産が同408億円増加したことによります。

単位：億円

	2013年8月期 第1四半期	2014年8月期 第1四半期	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+583	+419	
税金等調整前当期純利益	+595	+693	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献
減価償却費、のれんの償却額	+57	+81	
運転資金の増減額	+123	▲264	売上債権、たな卸資産、仕入債務の増減の合計額
法人税等の支払い・還付	▲259	▲245	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲92	▲137	
有形固定資産の取得による支出	▲68	▲106	旗艦店や出店拡大に伴う投資
無形固定資産の取得による支出	▲8	▲18	システム投資など
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲151	▲74	
配当金の支払額	▲131	▲151	期末配当金1株当たり150円の支払い
現金及び現金同等物の増加額	384	269	
現金及び現金同等物の期首残高	2,660	2,956	
現金及び現金同等物の期末残高	3,044	3,232	

16

次に、第1四半期のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、419億円の収入となりました。ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献693億円と収入が増加した一方で、運転資金が264億円の支出となりました。これは、たな卸資産が増えたこと、および8月末が銀行休業日であったため、前期の仕入債務の一部が今期の支払いとなった影響によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは137億円の支出となりました。支出の主な内訳としては、有形固定資産の取得で106億円、システム投資などによる無形固定資産の取得で18億円となっております。

なお、連結の設備投資額は154億円、内訳としては、国内ユニクロ事業で20億円、海外ユニクロ事業で90億円、グローバルブランド事業で23億円、システム投資で17億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、74億円の支出となりました。主な内訳としては、配当金の支払額151億円の支出となっております。

以上の結果、2013年11月末における現金及び現金同等物の期末残高は3,232億円となりました。

【連結】2014年8月期 通期業績予想

売上高 : 13,220億円 (前期比+15.7%)
営業利益 : 1,560億円 (前期比+17.4%)
経常利益 : 1,550億円 (前期比+4.0%)
当期純利益 : 920億円 (前期比+1.8%)

	2013年8月期 通期実績	2014年8月期	
		通期予想 (1/9時点)	前期比
売上高 (売上比)	11,430 100.0%	13,220 100.0%	+15.7%
売上総利益 (売上比)	5,640 49.3%	6,755 51.1%	+19.8% +1.8p
販管費 (売上比)	4,310 37.7%	5,195 39.3%	+20.5% +1.6p
営業利益 (売上比)	1,329 11.6%	1,560 11.8%	+17.4% +0.2p
経常利益 (売上比)	1,489 13.0%	1,550 11.7%	+4.0% ▲1.3p
特別損益	▲74	▲60	-
当期純利益 (売上比)	903 7.9%	920 7.0%	+1.8% ▲0.9p

単位: 億円

17

スライド17からは、2014年8月期の通期業績予想についてご説明いたします。

売上高は、先ほど国内ユニクロ事業の実績でお話しさせていただいた通り、内部取引80億円を訂正した結果、1兆3,220億円、前期比15.7%増と、修正させていただきます。

営業利益は、1,560億円、同17.4%増、経常利益は1,550億円、同4.0%増、当期純利益は920億円、同1.8%増と、期初予想から変更しておりません。

セグメント別業績予想は変更なし

単位: 億円

		2013年8月期	2014年8月期	
		通期実績	通期予想 (1/9時点)	前期比
国内ユニクロ事業	売上高	6,833	7,200	+5.4%
	営業利益 (売上比)	968 14.2%	1,145 15.9%	+18.2% +1.7p
海外ユニクロ事業	売上高	2,511	3,500	+39.3%
	営業利益 (売上比)	183 7.3%	280 8.0%	+52.6% +0.7p
グローバルブランド事業	売上高	2,062	2,500	+21.2%
	営業利益 (売上比)	174 8.5%	240 9.6%	+37.4% +1.1p

注 連結業績には上記のほか、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。
売上高には内部取引は含まれておりません。

18

スライド18はセグメント別の業績予想です。

今回は、セグメント別の業績予想数字については変更しておりません。

ただし、国内ユニクロ事業の利益につきましては、弱含み、
海外ユニクロ事業については、強含みとなる見込みです。

国内ユニクロ事業の売上高につきましては、第1四半期で約90億円下振れ
いたしましたが、年末からの好調な売上動向、および冬物コア商品を中心に
在庫が確保できていることから、1月、2月で売上は挽回できると考えて
おります。

ただし、年末から値引きを強めているため、第2四半期の
粗利益率については、計画を下回る可能性が高いと考えております。
今後は経費コントロールも合わせて行い、計画の業績達成に向け、
努力してまいります。

一方で、海外ユニクロ事業については、第1四半期では売上および
営業利益が好調に推移し、計画を大きく上まわることができました。
しかし、昨今の海外市場の環境の不透明さもあるため、現段階では、
業績予想の修正までは行っておりません。

グローバルブランド事業については、ほぼ計画通りに業績が推移していること
から、予想数字の変更はございません。

最後に、配当金予想ですが、中間配当金150円、期末配当金150円、
あわせて年間配当金300円と、期初予想から変更しておりません。
以上で私からの説明を終わります。
ありがとうございました。

	2013年8月期	2014年8月期	
	通期実績	通期予想	前期比
売上高	6,833 億円	7,200 億円	+5.4%
既存店伸び率(通期)	+7.3%	+1.6%	-
上期(予想)	+3.6%	+2.5%	-
下期(予想)	+12.6%	+0.5%	-
直営店舗数純増(通期)	10店舗	11店舗	+1店舗
上期(予想)	4店舗	▲2店舗	▲6店舗
下期(予想)	6店舗	13店舗	+7店舗
売上高総利益率(通期)	46.5%	48.6%(47.5%)	+2.1p(+1.0p)
上期(予想)	46.7%	48.5%(47.4%)	+1.8p(+0.7p)
下期(予想)	46.3%	48.7%(47.6%)	+2.4p(+1.3p)
売上高販管费率(通期)	32.4%	32.7%	+0.3p
上期(予想)	28.9%	30.0%	+1.1p
下期(予想)	36.9%	36.2%	▲0.7p

【連結】2014年8月期 上期業績予想

単位：億円

	2013年8月期	2014年8月期 上期	
	上期実績	上期予想 (1/9時点)	前年同期比
売上高 (売上比)	6,148 100.0%	7,285 100.0%	+18.5%
売上総利益 (売上比)	3,039 49.4%	3,705 50.9%	+21.9% +1.5p
販管費 (売上比)	2,073 33.7%	2,665 36.6%	+28.6% +2.9p
営業利益 (売上比)	966 15.7%	1,040 14.3%	+7.6% ▲1.4p
経常利益 (売上比)	1,077 17.5%	1,035 14.2%	▲4.0% ▲3.3p
当期純利益 (売上比)	654 10.6%	635 8.7%	▲3.0% ▲1.9p



<ご参考資料>

【国内ユニクロ事業】2014年8月期 上期・下期業績予想

単位：億円

	2013年8月期	2014年8月期		2013年8月期	2014年8月期	
	上期実績	上期予想	前年同期比	下期実績	下期予想	前年同期比
売上高 (売上比)	3,872 100.0%	4,110 100.0%	+6.1%	2,960 100.0%	3,090 100.0%	+4.4%
売上総利益 (売上比)	1,809 46.7%	1,995 48.5%	+10.2% +1.8p	1,370 46.3%	1,505 48.7%	+9.8% +2.4p
販管費 (売上比)	1,119 28.9%	1,235 30.0%	+10.3% +1.1p	1,091 36.9%	1,120 36.2%	+2.6% ▲0.7p
営業利益 (売上比)	689 17.8%	760 18.5%	+10.2% +0.7p	278 9.4%	385 12.5%	+38.2% +3.1p

連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位：店舗】	2013年 8月期 期末	2014年8月期末							
		1Q実績(2013/11末)				通期 予想(2014/8末)			
		出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1299	90	21	+69	1,368	243	47	+196	1,495
国内ユニクロ事業※	853	22	19	+3	856	55	42	+13	866
直営店	834	22	19	+3	837	53	42	+11	845
大型店	177	13	0	+13	190	27	2	+25	202
標準店等	657	9	19	▲10	647	26	40	▲14	643
FC	19	0	0	0	19	2	0	+2	21
海外ユニクロ事業	446	68	2	+66	512	188	5	+183	629
中国(除く香港)	225	27	1	+26	251	82	2	+80	305
香港	18	1	0	+1	19	5	1	+4	22
台湾	37	5	0	+5	42	10	0	+10	47
韓国	105	11	1	+10	115	30	2	+28	133
シンガポール	12	1	0	+1	13	6	0	+6	18
マレーシア	10	2	0	+2	12	10	0	+10	20
タイ	10	3	0	+3	13	10	0	+10	20
フィリピン	6	4	0	+4	10	11	0	+11	17
インドネシア	1	1	0	+1	2	3	0	+3	4
オーストラリア	0	0	0	0	0	1	0	+1	1
英国	10	0	0	0	10	0	0	0	10
米国	7	10	0	+10	17	15	0	+15	22
フランス	3	1	0	+1	4	2	0	+2	5
ロシア	2	2	0	+2	4	2	0	+2	4
ドイツ	0	0	0	0	0	1	0	+1	1
ジーユー事業	214	39	3	+36	250	70	7	+63	277
セオリー事業※	411	17	3	+14	425	49	3	+46	457
コントワー・デ・コトニエ事業※	375	2	5	▲3	372	4	6	▲2	373
プリンセス タム・タム事業※	150	2	0	+2	152	4	2	+2	152
J Brand	0	1	0	+1	1	2	0	+2	2
総 合 計	2,449	150	32	+118	2,568	372	65	+307	2,756

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まず ※フランチャイズ店は含む



<ご参考資料>

為替レート、設備投資、減価償却費、のれん償却費

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2014年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)	98.2	132.4	156.2	16.1	9.1
2013年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)	78.6	100.6	126.1	12.5	7.1
2014年8月期 通期予想レート(1/9時点)	94.0	120.5	143.0	15.0	8.5
2013年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	89.8	117.3	140.2	14.5	8.1

設備投資・減価償却費・のれん償却額

単位：億円

	設備投資	減価償却費	のれん償却額
2014年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	154	66	15
2013年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	101	47	9
2014年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	584	262	60
2013年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	396	236	52

設備投資内訳

2013年8月期 1Q実績： 国内ユニクロ 25億円、海外ユニクロ 47億円、グローバルブランド事業 22億円、システム他 4億円

2014年8月期 1Q実績： 国内ユニクロ 20億円、海外ユニクロ 90億円、グローバルブランド事業 23億円、システム他 17億円

2014年8月期 通期予想： 国内ユニクロ 98億円、海外ユニクロ 320億円、グローバルブランド事業 103億円、システム他 57億円